

(その153) リーフレットが生きて悩みがイッキに解決(2018.6発行)

姉が肺炎で入院したと聞き、駆け付けた私が目にしたのはチューブに繋がれた痛々しい姿でした。万が一のことを考え頭の中が真っ白になりました。

とにかくお金の工面をしなければなりません。姉に付き添い何度も銀行に行っているので行員さんたちとは顔見知りです。事情を説明すれば理解してくれるだろうと銀行に行くと「本人が窓口に来ないことには預貯金の引き出しはできません」と言われ愕然としました。

でも姉の状況を見てもらえば分かってくれるはずと行員さんたちを強引に病院に連れて行きましたが、もう会話ができません。「お姉さんの回復を待つしかありませんね」と突き放され、絶望しました。

家に帰り思案している中で、いざという時のためにくらしの相談センターのリーフレットを保管していたことを思い出しました。困ったときにはここに相談しようと何年もしまっておいたのです。

藁にもすがる思いで受話器を手に電話すると、所長さんに明日すぐ事務所に来てくださいと言われホッとしました。

翌日、待っていてくれた所長さんから女性の行政書士さんを紹介されました。その人は早速、私と姉の任意後見契約を手配し、銀行と掛け合って無事に預貯金が引き下ろせるように手続してくれました。

さらに姉の意思を尊重した公正遺言書まで作成して頂き、たいへんよろこばれました。わずか一か月以内で悩んでいた問題がすべて解決しました。不安で眠れない日々でしたが、お金の心配が解消し姉も元気になり今はよく眠れています。

本当に感謝しています。

川崎市幸区 男性(70代)